



～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2014年 秋号
第80号



志賀直哉旧居

目次

| | | |
|---|--------|-------|
| ■ 近建女交流事業ペーロン大会に参加して | 本保 万貴子 | 1 ページ |
| ■ 和室の話① ～～畳～～ | 上田 壽子 | 2 ページ |
| ■ 「山とまちと木造建築」京都府建築士会主催 全国大会に向けた“キックオフミーティング” | 岩城 由里子 | 3 ページ |
| ■ 奈良市石木町 近世・近代の歴史的建造物調査 | 渡邊 有佳子 | 4 ページ |
| ■ 私と建築 | 平島 朋子 | 5 ページ |
| ■ 私と建築 | 藤山 久仁子 | 6 ページ |
| ■ 今後の事業予定 | | 7 ページ |

近建女交流事業ペーロン大会に参加して
本保 万貴子



夏もそろそろ終わりかけの、8月30日、抜けるような青空の下、琵琶湖畔大津なぎさ公園サンシャインビーチで開催された「第24回2014びわこペーロン大会」でペーロンを漕いできました。

近畿建築士会協議会女性部会（近建女）の交流事業としては昨年に引き続き2回目で、昨年は応援団でしたが、今年は10人漕ぎ女子の部の競漕に乗船。京都・大阪・兵庫・和歌山・奈良の女性建築士が「近畿女性建築士」号（近畿艇）、滋賀女性委員会が「ゴーゴー！女性建築士」号（滋賀艇）で出場しました。

ペーロン（飛竜・白龍）とは、中国から伝来した競漕用船で、和船に似た船先の突き出た細長い船に、10人漕ぎの場合は、漕ぎ手10人が2列に座り、船先で太鼓を叩いて櫂のリズムを取る鼓手と、艫で舵を取る舵手の計12人が、調子を合わせて櫂で水をかいて速さを競います。長崎や相生の大会が有名です。



「ゴーゴー！女性建築士」号の勇姿

奈良からは、漕ぎ手に武市さん、庄田さん、本保、応援団に杉田さんの4名が参加しました。

開会式は午前8時からでしたが、最も早い滋賀艇の出艇が10:40なので9:30に会場に集合。すでに、レンタルしたテント内では、滋賀士会の方達のお陰で準備万端に整えられていました。残念ながら、飲酒運転になるのでアルコールは禁止ですが、飲み物やお菓子、スイカも冷えていました。

さっそく、滋賀士会に借りたオレンジ色のお揃いのTシャツと大阪士会差入れのサンバイザーに着替え、気分が徐々に盛り上がっていきます。滋賀艇は

ピンク色のTシャツです。日焼け対策の完全装備と、万が一に備えて下には水着等を着用し、足下は、船上では素足ですが、レース中に濡れた足のまま履くので、濡れても良い履物です。もちろんレース中は、主催者が用意した救命胴衣も着用します。

しかし、やる気は満々なのですが、何しろ近畿艇の漕ぎ手は、奈良の3名を含めて大半が初めての乗船。まずは、滋賀艇経験者の指導の下、櫂の持ち方、漕ぎ方、リズムの合わせ方を、タオルを櫂に見立てて練習です。鼓手も太鼓のたたき方の練習に大かわらわ。舵手は慣れた人でないと出来ないので滋賀士会の方をお願いしました。



日焼け対策しながら練習中

レースはワンウェイ400mで、部門別に3～4艇毎のトーナメント方式で行われ、予選1位だけが決勝または準決勝に、2位以下は敗者復活戦に回ります。出場艇は、20人漕ぎ一般の部15艇、10人漕ぎ一般の部11艇（京都市会青年部会が出場）、10人漕ぎ混合の部6艇、そして10人漕ぎ女性の部は6艇。なので、午前の予選と午後の決勝または敗者復活の2回出艇できます。でも、武市さんだけは3回も乗船し漕いだのです。なぜそんなことが??



「近畿女性建築士」号出艇！

で、2艇の結果はどうだったか？ナア～ンてことは気にもならないくらい楽しくて、久しぶりの筋肉痛と気持ち良い疲れを近畿の仲間と分かち合いました。皆さん、来年は、ぜひ参加しましょう。



最近の建売住宅には和室のない家が多いです。(瑕疵担保保険の検査員をしています)床の間付きの和室にはめったにお目にかからなくなりました。

『たたみ』って廃れていくだけなのでしょうかね？

関西だけかと思いますが、和室だけでも京間にしてほしいという施主もいらっしゃいます。広さが違うし、箆笥の納まりも違います。

京間と関西間・本間は同じものです。江戸間は関東間・田舎間とも言われます。他に中京間・九州間・越前間・安芸間などがあります。

最近では、ほとんどの住宅が江戸間で作られています。坪数換算がしやすいからでしょうか・・・？

1間6尺(約1,820)ですね。江戸間の場合は柱間の数値が1間半で9尺(2,730)、2間で12尺(3,640)というように寸法が決まり、畳の大きさはそれによって違ってきます。9尺×9尺の4畳半では柱3寸5分(10.5)の場合、畳の巾が $2,625 \div 3 = 875$ になります。2間の場合(8畳間)は $3,535 \div 4 = 883$ です。

京間の場合はまず畳の大きさが決まっています。3尺1寸5分×6尺3寸(955×1910)が京畳の大きさです。4畳半の場合3.15尺×3=9尺4寸5分になり、その外側に柱がきます。柱が3寸5分(10.5角)の場合と4寸柱(120角)の場合によって、部屋の寸法が違ってきます。8畳間とすると3.5寸の柱の場合の柱間は3,925になり、4寸柱の場合3,940になります。当然面積も変わってくるわけです。

8畳間を考えると江戸間では4.00坪になりますが京間の場合は4.66～4.69坪になります。京間で家を作ってほしいといわれたときには要注意です。(決して985グリッドで図面を書かないように！)

中京間などは畳が6尺×3尺(1,820×910)になり京間と同じように柱がその外側にくるので柱間寸法が違ってきます。地方に行って「うちのは広い・・・」とおっしゃる和室はこのケースが多いです。

最近のハウスメーカーの場合はメーターグリッド

なるものも見られ、m(メートル)で作られる住宅も多いですね。私はそこに坪単価のからくりがあるような気がしてならないのですが・・・。

畳表は備後(広島東部)産が最上といわれています。最近では九州、高知産のものも多く使われます。たたみ1畳にしても、安い中国産表の7,000円くらいから10万円以上するものもあり、幅がものすごく広いです。イグサの織り方は引き通し織り、中継ぎ織り、飛び込み折りと3種類あるそうです。中継ぎ織りの畳は中央5目くらいが密になり、確かに目を凝らすと違いがわかります。最上級の織りでなくても、茶室などの場合は畳目の位置に要注意です。風炉の位置が畳目を基準にして決まっています。茶室はすべて京畳で作られます。

また、茶室の畳は新しければいいというものでもありません。新しすぎるとイグサの香りがお茶の香りを邪魔してしまうからで、京都迎賓館ではお茶会の半年前に畳を替えるのだそうです。

畳の縁は無地縁と紋縁があります。木綿や麻、高麗縁などがあり茶室は紺の麻縁が好まれます。

縁も真行草とあり、一般的には巾が27～30mmですが「草」になるほど幅が24mmと細くなります。部屋を軽快に見せるため縁を細くする場合もあります。縁ひとつとっても部屋の印象が変わります。床の間には高麗縁などの紋縁がよく使われます。茶室ではあまり紋縁をしません。



写真左：ロート製菓樓霞園の床 縁は白中紋柄縁

右：表千家残月亭 二畳上段

最近では縁のない琉球畳もよく使われます。表はイグサではなく、カヤツリグサ科に属する七島藪(シチトウイ)で作られているそうです。

また畳の敷き方も祝儀敷きと不祝儀敷きがあり特に8畳間では一般の座敷の畳の敷き方と茶室の敷き方では方向が違います。一般の敷き方で茶室に使うと腹切畳となり、タブーとされています。

「山とまちと木造建築」京都府建築士会主催
全国大会に向けた“キックオフミーティング”
岩城由里子



去る8月9日、京都のひと・まち交流館京都にて開催された、京都府建築士会主催「山とまちと木造建築」キックオフミーティングに参加しました。

3年後に開催される第60回全国大会の開催地は京都ですが、その開催テーマを探るキックオフとして今回のイベントが開催され、「山とまちと木造建築」に携わる13名の方が、キーワードを手渡すリレー形式でそれぞれのお立場での話をされました。



キーノートとしての連合会会長三井所氏のご登壇からはじまり、林業家、木材事業者、木材コーディネーター、設計者、大工棟梁、平成の京町家の住まい手、ヘリテージマネージャー、まちづくり・まちおこしびと、そして各地での取り組み事例として奈良県建築士会会長淵上氏のご登壇され、奈良で展開されている県産材利用促進の話をされました。その他、島根と京都の事例も紹介されました。最後のキックオフスピーチとして京都府建築士会会長衛藤氏が今回の企画の主旨をお話しされましたが、3年後の全国大会開催に向けた熱意を強く感じました。

リレートークの中でのそれぞれの方のお話は大変興味深いものばかりでしたが、日本の山の抱える問題と現代の価値観、林業再生の必要性の話は、我々作り手であり消費者でもある建築士の意識にも密接

につながっているように思いました。大工棟梁の立場で登壇された(株)木村工務店の木村忠紀氏が「現代の家は、車で例えるなら“軽自動車”ばかりで駄目だ」と憤慨されていたのも印象的でした。ここ数十年の世の中の変化、技術革新と企業の利益至上主義、消費者は簡易で便利なことを追い求めたことにより、数百年続いてきた日本の技術や心が廃れてしまい“文化喪失の時代”に落ちぶれてしまいました。我々建築士(国の制度も含め)はそれに加担している立場であり、消費者のニーズだけの責任では無いでしょう。我々は求めに応じればそれで良いのかというところではなく、専門職の立場としての一つ一つの判断が未来への責任を負っていることを改めて痛感しました。

取り組み事例の中で、島根県建築士会が木造の限界耐力計算の推進に取り組まれている話をお聞きしました。これも一つの“古くて新しい革新”だと感じ、そのような方向性にとっても共感しました。

リレートークの中で“生業(なりわい)の生態系の保存”の話や“木造建物の宗教性”の話もお聞きしましたが、このようなテーマも未来に向けた方向が内包されているように感じました。

世の中が肥大し過ぎ、“行くところまで行きついた感”がある今、原点回帰のような「山とまちと木造建築」という京都大会のテーマには大変意味があると思います。

古都奈良で活動する我々女性委員会も、文化の喪失が進まぬように発信していかなければなりませんね。



奈良市石木町 近世・近代の歴史的建造物調査
渡邊 有佳子



「奈良市における近世・近代の歴史的建造物の掘り起しによる地域活性化事業」として、富雄地域石木町の建物調査が行われました。

はじめに帝塚山歴史教室の中田氏より、調査地域である石木町周辺の成り立ちと歴史について説明がありました。石木町は、西に矢田丘陵、東に西ノ京丘陵に囲まれ、間に黒添池（くろんどいけ）を源流とする富雄川が北から南へ緩やかに流れています。この富雄川流域は、弥生時代から古墳時代にかけて、それぞれの地に自然的に村落が形成されていたそうです。太閤検地により当時の四村落の名前が二名、三碓、中、小和田と定められ、小和田村が分村・合併をして石木村になったということでした。



江戸時代の石木町周辺の地図

その後、江戸時代、明治時代と富雄川の氾濫や飢饉を乗り越えながら歴史の変遷を経て、富雄村に。大正3年、近鉄の前身の大阪電気軌道が開通し、富雄駅が設置されたことから人口が増加。昭和28年には富雄町となりましたが、昭和30年に奈良市と合併したそうです。

説明を聞き終わり、太古から集落が形成され人の営みが受け継がれてきた場所ということを知ったことで、調査をするのが楽しみになりました。調査は3人1組で、担当エリアの建物を1軒ずつ外観から構造、建物の建った時期、伝統的な特徴などを調べ

ます。私の組の担当エリアは、これまでよく自動車で行っていた場所でした。調査が始まり一軒ずつ見ていくと、いくつか伝統工法の建物がありました。普段自動車を運転しながら見ているはずなのに、古い建物に全く気づいていなかったことに驚きました。調査で多く見られた民家は農家で、広い敷地の中に主家とは別に長屋門や納屋を併設していました。旧街道沿いには、町家形式の民家もいくつかありました。瓦屋根、煙出、出桁、うだつ、虫籠窓、格子なども多く見られました。格子や軒裏がべんがらで塗られた美しい民家があり、印象的でした。格子の意匠も美しく、当時の技術の細やかさに魅せられました。鬼瓦の表情も様々で、おもしろい表情のものがいくつかありました。



べんがら塗の美しい格子

調査の結果は調査シートに記入し、写真と共に提出します。今回の調査報告が活かされ、富雄地域の近世・近代の歴史的建造物が活用されることを願います。



瓦屋根と煙出



私は建築設計の仕事始めて約20年になります。20年…30代後半からなのであつという間に過ぎた気がします。

そもそも、建築設計が、何故仕事になったかという話をしたいと思います。

もともと大学で建築の勉強をしていたわけではなく、どちらかというと、色彩学や洋服のデザインを学んでいました。卒業してからは一般企業で4年間店舗運営や販売の仕事をし、26歳で友人3人とアパレルの会社を起こしました。起業といってもそんなカッコいいものではなく、若い女子3人が親がかりもありで、好きな洋服をデザインして創ってSHOPで売るといことです。

店は梅田にあり、デザイナーブランド大流行の時期でした。お洒落な人達と共にアンティークの買い付けに行ったり、東京に行ったり、自分達の店なので話し合いながら思い通りに店を作り上げ、楽しくて貴重な時間を過ごしました。

そして結婚、出産を機に、地元で仕事をしようと思ひ、始めたのが、奈良には少なかった西洋アンティークの店です。アンティークといっても100年以上前のもではなく、食器や照明やキッチン雑貨など日常使いできるものを主に扱いました。

そのうちお客様に「これはどんな部屋に似合う？」とか「どこに飾ったらいい？」などと聞かれることが増え、アドバイスをしていたのですが、それなら家全体を提案できれば良いのではないかと思つたのです。

そこから、勉強をして建築士の資格をとつて、建築設計事務所の登録をして、設計を仕事にしました。

こういう経緯なので、どちらかというと構造計算をしたり硬い図面を描いたりなどのハードな部分よりも、意匠デザインのようなソフトな部分が得意です。

ハードの分野は、それが得意な人と相談・確認しているので安心ですが、ソフトになると人それぞれ

違います。

設計デザインしているのは、すべて個人の住宅や店舗なので、お施主様の思いが直接表れます。

そこで私が心掛けていのは、建物や空間はそこに暮らす人が、一番思い描いているイメージを創り上げることが大切だということです。

お施主様はほとんどの場合、「こんな感じ」とか、「このイメージ」という抽象的な言葉で言われます。それがどういうものなのかを推し測り、どうすればそのイメージになるのか、またいくつもの細部へのこだわりをバランスよくまとめて全体を提案するのが、私のできることです。

具体的には何かキーワードを見つけて、例えば、フレンチシック・シャビー・ブロカント・ナチュラルカントリーから大正ロマン・明治の洋館・等々

そこからいろんなお話をして、もっと引き出しを開けて、個々を組み立てる。

この感覚的なイメージを掴むということに少し自信があります。それは昔のアパレルの仕事や流行の先端を見てきたことや、ファッション誌や洋書をたくさん見てきた経験が役立っているのではないかと思います。

そして掴んだイメージで、一番前に見えてくる建物の表情やデザインを決定して職人さんたちに伝えます。

また創っていく過程も、ひとつひとつ違っていて、この材料をこう使えば思っているものになるだろうとか、現場で自分で作業したりもします。現場大好きなので！

こういう一人一人のための建築ができるのも個人の設計事務所だからこそです。

時間と手間はかかりますが、出来上がった時に思っていたようになったと喜んでいただけることが幸せですね。

こんな楽しい仕事をもう少し続けられるよう、これからも感性を磨いて、アンテナを張って勉強していかなければと思います。



北葛城郡広陵町で、主人と2人で小さな設計事務所を開設して、早30年が経とうとしています。

経理畑のサラリーマン家庭に育った私が高校時代に建築士という職業を知り、当時の担任の反対を押し切り大学の理工学部建築学科の門をくぐったのが今の私の出発点です。母を早くに亡くし父と祖母が育ててくれたわけですが、私の意思を妨げず応援してくれた二人に、今すごく感謝しています。

大学の1年生の時に世に言う「オイルショック」が起り、卒業時には就職先がなく同期の仲間が四苦八苦の就活をしていましたが、私はアルバイト先でもあった大阪の設計事務所に就職できました。設計士と言われる人が20人ほどおられる中堅の設計事務所でした。約半年間は図面折製本とコピー焼きが1日中という生活の中でも、整然と並んだ製図板のトレンシングペーパーに、芯研ぎ機でピンととがらせた鉛筆で線を引く先輩の後ろに立ち、「どうすればわかりやすくきれいな図面が書けるのか」「それぞれ癖のある文字の書き方や形を自分のものにできるのか」そんな事ばかりを考えて夢を膨らませる毎日でした。最初に奈良県建築士会に入会したのがこの頃です。

やがて先輩の図面を手伝えるようになりましたが、農協サイロや大きな老人ホーム等を手懸ける事務所だったので、サブの私の仕事は全体を把握するようなものではなく一部分だけを繰り返すのみの仕事が2年ほど続きました。初めての挫折でした。午前6時台の電車に飛び乗り、午後11時台の帰宅という生活に疲れ果てたのが大阪勤務をあきらめた原因です。

しばらくして、知り合いの紹介で奈良の個人の設計事務所に勤めることとなります。そこで私は色々なことを教えていただくこととなります。勤務経験はあるとはいっても、一式設計の経験のない私に所長は辛抱強く一棟の住宅の設計を任せて教えてく

れました。施主や業者との打合せから法手続き、図面の仕上げまで……。毎日毎日無我夢中でした。この時に建築設計の魅力に取りつかれたのかも知れません。今でもこのときの所長は、私の人生の恩師だと思っています。

その後、結婚・出産を経る間の3年ほどは仕事から離れることとなりましたが、主人の独立開業を機に復帰することとなります。二級で良いと自己満足していた私ですが、大学時代の先輩に「ぜひとも一級建築士の資格を取りなさい」と後押しされ、まだ6歳だった二男を姑に見てもらっての受験勉強は、生涯の中で一番勉強した一年だったように思います。こうして2回目の建築士会への入会となるのです。20代の入会時のことを覚えてくださった先輩方から親しくお声掛けいただき、旧知のメンバーのようにお付き合いいただけるのをとても有りがたく思っています。

設計業界も長年携わっていると、仕事の多様化、分業化・たび重なる法改正・CADの普及、そして個人責任の重大化と大きく様変わりしてきました。

けれどもその本質は、何もないところに施主様の信頼の元、要望と自分自身の能力と経験とデータを駆使して、形を描き個体として仕上げるという何とも幸せな仕事をさせていただいているものです。自分の一番好きな事を職業に出来ている私自身がとても幸せだと感じます。

今、還暦も過ぎ、これまで歩いた足跡を時々振り返りながら、まだまだもう少し自分に恥じない仕事ができたらいいなと考えます。そうすれば自然と、子供たちが私たちの仕事を引き継いで……。

今後の事業予定

- 11月 1日 (土)
女性委員会 近畿建築士会協議会女性部会 (近建女) 交流事業「木のマンションリノベーション」講演と意見交換会 (大阪:TOTOTECHニカルセンター)
- 11月 2日 (日) 青年委員会 木のパズル出前授業
- 11月 6日 (木)
女性委員会 ユニバーサルデザイン講演会 趙玫姫氏 (建築士会館 会議室)
- 11月 9日 (日) はならあととコラボセミナー
- 11月 9日 (日) 三重県合同見学会
- 11月 15日 (土)～16日 (日)
青年委員会第34回豊かな海づくり大会～やまと～
- 11月 15日 (土)
近畿建築士会協議会青年部会 大阪会議
- 11月 16日 (日)
文化財建造物専門家スキルアップ講習会第3回 (予定)
- 11月 19日 (水)
第3期一級・二級・木造建築士定期講習 (奈良県産業会館)
- 11月 26日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 11月 29日 (土)
第16回奈良県景観調和デザイン賞 公開審査会 (今井まちなみ交流センター「花薨(はないらか)」)
- 12月 4日 (木) 理事会
- 12月 4日 (木)
二級・木造建築士「設計製図」試験合格発表 (予定)
- 12月 7日 (日)
文化財建造物専門家スキルアップ講習会第4回 (予定)
- 12月 14日 (日) 青年委員会 お菓子の家作り
- 12月 18日 (木)
一級建築士「設計製図」試験合格発表 (予定)
- 12月 24日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 1月 14日 (水)
新年名刺交換会 (奈良ホテル 予定)
- 1月 16日 (金)
奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会 (奈良県文化会館)
- 1月 17日 (土)
近畿建築士会協議会青年部会 和歌山会議

- 1月 18日 (日)
文化財建造物専門家スキルアップ講習会第5回 (予定)
- 1月 24日 (土)
青年委員会 建築士試験合格者祝賀会 (予定)
- 1月 28日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 1月 31日 (土)
新近畿建築祭 (神戸市産業振興センター)
- 2月未定 珠光茶会 (予定)
- 2月 22日 (日)
文化財建造物専門家スキルアップ講習会第6回 (予定)
- 2月 25日 (水)
第4期一級・二級・木造建築士定期講習 (春日野荘)
- 2月 25日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 2月 27日 (金)～28日 (土)
女性委員会 全国女性委員長会議及び第24回全国女性建築士連絡協議会 (東京:建築会館ホール)
- 2月 28日 (土)～3月 1日 (日)
青年委員会 奈良の森と木と家のフェスタ出展 (橿原イオンモール アルル)
- 3月 7日 (土)～8日 (日)
平成26年度全国青年委員長会議
- 3月中旬 女性委員会 1日見学会 (予定)
- 3月未定 青年委員会 見学バスツアー (予定)
- 3月 14日 (土)
近畿建築士会協議会青年部会 京都会議
- 3月 19日 (木) 理事会
- 3月 25日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 4月 23日 (木) 理事会



編集後記
 今号より、「和室の話」と題して、上田壽子建築設計室の上田様に和室にまつわる内容について、1年間の連載でお話を伺っていく予定です。女性委員会でも今年度より和室研究会がスタートします。研究会の開催等をフープにてお知らせいたしますので、興味のある方は是非御参加ください。 (中辻 千重)
